2012年度 全日本470理事会 議事録

開催日時： 2012年11月24日（土） 18:00～21:00

開催場所： 銀星旅館2階 会議室

出席者： 渡邊、倭、信時、戸張、秋元、五味、加藤、浅原、中村、佐藤、相澤、京黒、川上、
岩崎、葛西、三船、渡邊、武田（敬称略）18名

オブザーバー：倉持様（東北水域）

【議 題】

1. 国際470協会総会報告（戸張理事）
2. 強化から（中村理事）
 - ・ リオ・オリンピック日本代表選考について説明（案）
 - ・ 女子ダブルハンド試乗会について（12月開催）
 - ・ 強化合宿及び遠征について
 - ・ 420支援について意見交換
 - ・ 今後のジュニア/NTの選考について意見交換
 - ・ 国内レース飽和状態の改善について意見交換
3. スタープラン3年間の実績について意見交換（信時理事長）
4. 水域予選枠・全日本出場の条件について（信時理事長）
5. 全日本学生ヨット選手権大会における大会計について（川上理事）
6. 計測委員会事務局の現状報告（京黒理事）
7. その他
 - ・ 理事承認
 - ・ 来年・再来年の開催地候補について

渡邊会長より挨拶：全日本470選手権開催についての講評及び地元へのお礼を話される

信時理事長より新任理事およびオブザーバーの紹介

- ・ 中国水域新任理事 岩崎祐児さん
- ・ 東北水域 倉持さん

1. 国際470協会総会の報告

戸張理事より資料に基づき報告があった。

- ・ マネージメントコミッティーに堤智章氏が選出された。それに伴い日本470協会の理事（国際委員）就任が承認された。
- ・ ウェブで検索、閲覧可能なメジャーメントフォーム、検討してもうすぐ決まる。
- ・ メジャーな世界大会では国旗をメインセールに入れようという動きあり。
- ・ 国際470協会も普及とか発展のためにいろいろなサポートプログラムをやっている。小さな国でも頑張っている選手には支援してワールド大会に出られるようにしている。他国では470級と420級とが合同で大会を開催したり、クリニックを実施したりと一緒にジュニアの強化活動を行っていることが多い。

2. 強化から

- ・ リオ・オリンピック日本代表選考について

中村理事より資料に基づき説明があり、質疑応答の後で、以下のような結論となった。

470協会としては、JSAF オリンピック特別委員会が決めたことに関しては基本的に協力していく。ただし、下記の意見もあることを中村理事より報告してもらう。

《意見》

- ・ 代表選手を10ヶ月前に1チームに絞って決めるのが本当に良いのか。
 - ・ 元ナショナルチームや過去に選考で残った選手の意見を反映させたほうが良いのではないのか。その意見を聞いてから理事会で話しあうのも一つの選択肢ではないか。
 - ・ 1つの大会できめたほうが、いろいろな思惑が入らなくて良いのではないのか。また、企業もその大会に向けて資金などのサポートをしやすいのではないのか。
 - ・ オリンピック特別委員会が1大会か複数大会のいずれかで決めるのを決定したら、その方針を変更せずにやってほしい。
 - ・ 強風が強い選手ならプログラムを組んで軽風のトレーニングをしていけば、軽風にも強くなっていく。そういう選手をつくっていかないとオリンピックには向かっていけないのではないのか。
 - ・ リオの海面調査が必要である。
-
- ・ 女子ダブルハンド試乗会合宿について
中村理事より資料に基づき説明があった。
ロンドンオリンピックが終わって近藤・田畑組は解散、田畑選手はシングルでリオを目指す、近藤選手はまだ気持ちがハッキリしていない、吉迫チームは継続しない、という状況で、その次の世代の選手がいらない。
次の世代を発掘し、オリ特でスポンサーを探すまでの受け皿をサポートすることを条件に

この合宿を実施する。

いま現在エントリーしているのは5人。そのほかに手が挙がっている人を含めると10人くらいになる。

合宿後、すぐに該当選手を強化していかないとリオには間に合わない状況である。

この全日本に出ている選手で推薦できそうな選手がいたら是非、声かけをお願いしたい。

参加締め切りは11月26日（月）だが、レースではないのでレイトも大丈夫。

- ・ 次年度強化について

中村理事より資料に基づき下記の説明があった。

ロンドンオリンピックについては、企業チームに任せっきりになっていた部分がある。

今後、一緒になってやらないと結果が出てこないということが議論され、国内の合宿を多めにいれていく。そのなかで、将来有望な選手も入れていく。

出来れば、年に6回の合宿を実施したい。

オリンピック金メダリストのオーストラリアのチームとアビームチームがスポンサード契約をして一緒に練習できるので、日本チームに還元できる環境をつくりたい。

具体的には日本国内の合宿に彼らに来てもらって、一緒に練習するのが目的。

まず、来年1月にNT、ジュニアワールドの代表が決まって招集をかける。選手達の要望を聞いて練習メニューを決めていきたい。

AC合宿＝アスリート・チェック 健康面・体力測定をおこなう。

遠征派遣についてはヨーロッパ遠征は4月、5月で3レガッタ予定。7月～8月にかけてのワールド、9月ISAFプレワールド（2014年ワールドの開催地と同じなので重要、必ず派遣する）、9月下旬（国体同時期）アジア選手権、10月チンタオでのワールドカップ。アジア選手権は2014年と同じ場所なので派遣したいが、470でなく、ユースを派遣して現調査してもよい。

国内の合宿にオーストラリアチームに少なくとも最低1回はきてもらうようにしている。

実際これだけの合宿・遠征を実施する場合、予算の積み上げをすると、今までより費用がかかるので、プライオリティを決めてスリムにしていかなければいけない。

もしかしたら、ナショナルチーム数を減らすことも考えないといけない。

ナショナルチームが決まったら、また変わる可能性があるが、以上のような考えかたで年間強化をしていこうと考えている。

- ・ 420支援について（意見交換）

中村理事の趣旨説明の後、渡邊会長・倭副会長・京黒理事より補足説明があった。

意見交換後、渡邊会長の話により、420の協力はするが、どのように協力するかは理事長

と副会長とで相談した上で JSAF へ報告することに。

ただ、その前に 470 協会が寄付できる体制になることが必要で、そのためには 470 協会が法人格になるのが良いのではという意見が出た。

NPO 法人化に向けて、戸張理事と五味理事が調査および起案を行うことになった。

- ・ 国内レース飽和状態の改善について「JSAF NATIONALS の開催」
中村理事より資料に基づき説明があり、意見交換がおこなわれた。
毎週、毎週、どこかでレースをやっているという状況を変えてゆきたいのがこの提案の目的。
それを 470 協会でも共通したテーマとして持っていただきたい。

《意見交換》

- ・ 国体で一緒になるのが、一番費用がかからない。ただ開催地で風があるかなど問題がある。
- ・ 実業団をプレ国体でやらない場合、NATIONALS と江ノ島のオリンピックウィークとはなにがちがうのか。その年は両方やるのか。オリンピックウィークは ISAF のグレードに入っている大会なので無くすことはできない。
- ・ 国体の内容・レベル・運営水準では、種目によって開催は無理なのではないか。
- ・ これは和歌山の鈴木國央さんからの提案で、海面、運営含み和歌山でできるならまずやってみようよという話。現場が出来ますよと言ってくれないとできない話で、一回これをやってみてモデルケースにしたらどうか。
- ・ 隔年開催とか 2 年に 1 度各水域でやるとかは決めないほうが良いのではないか。
- ・ プレ国体の時期は動かせるが、プレ国体の目的は国体のリハーサル大会であるので、開催時期はそれに近い時期にやりたい。種目は国体種目を基本としている。
- ・ 開催地によってはエリアが狭くて多種目を実施するのが難しい場合がある。
- ・ 420 と一緒にレースを開催することで、420 を育てていくことで 470 を強化するという趣旨なら良いが、他のクラスとやって 470 が逆に縮小するのではこれをやる意味はない。例えば、470 女子全日本を独立して実施していた時には出場艇数は多かったが、全日本 470 と同時開催になったら少なくなった例もある。
- ・ 今の国体、プレ国体のレース運営にはどちらも魅力はないので、国体運営のなかで、全日本 470 をやることは賛成できない。魅力あるレースが出来るような国体に変えてゆかなければならないのでは。
- ・ この提案は基本的なセーリングプロモーションの話も含んでいる。

3. スタープラン 3 年間の実績について

信時理事長より資料に基づき報告後、次年度以降の取り組みについての意見交換がされた。

目的はトップ層に支援をすることによって、そのノウハウをその下の層・次の世代に繋げて国内の競争環境を分厚くすること。内容的には強化の領域なので、今回出た意見をたたき台にし

て、今後、強化の方で検討してもらおう。

基本的には成果も出始めている施策なので、このまま継続することになった。

《意見》

- ・ 実際に支援を受けた渡邊哲雄理事から、非常に良いプランであるので、今後も続けてほしいとの意見あり。
- ・ 江ノ島オリンピックウィークの学割制度を SAIL 和歌山にも適用して欲しいとの意見あり。
→次回から適用させていくこととなった。

4. 水域予選 枠・全日本出場の条件について

信時理事長より資料に基づき説明があり、質疑応答のあと承認された。

5. 全日本学生ヨット選手権大会における大会計測について

川上理事より資料に基づき説明があり、質疑応答のあと承認された。

- ・ 学連はクラスルールを変更してセール計測をしているので、その変更を協会にきちんと提出してから運用するべきでないか。クラスルールを変更しておこなっていることを選手に認識させるべきだ。

6. 計測委員会事務局の現状報告

京黒理事より資料に基づき報告があった。

7. 全日本実業団470活性化対策（案）

渡邊全日本実業団理事より資料に基づき報告があった。

また、渡邊氏の日本470協会の理事就任が承認された。

8. その他

来年 2013 年の全日本は福岡小戸に決定。再来年 2014 年はオリンピック代表の選考方法によっては、2016 年のオリンピックの前年ではなく、前々年（2014 年）が重要な全日本になる可能性がある。その場合は通例として江ノ島で実施することになるので選考方法の決定次第。

以上で理事会は閉会した